

稼働遺産とその活用


— 新たな展開を求めて —



写真 末広橋梁（旧四日市港駅鉄道橋）1931年（昭和6）製造 千歳運河に架かる現役最古の鉄道可動橋

2016年2月21日（日）午後1時～午後4時45分

主催：  **中部産業遺産研究会** The Chubu Society For The Industrial Heritage

共催：  **トヨタ産業技術記念館**



会場 **トヨタ産業技術記念館 ホールA**

〒451-0051 名古屋市西区則武新町4丁目1番35号

公共交通機関でのご来館は

- 名鉄：名古屋本線「栄生駅」下車、徒歩3分
- 市バス：名古屋駅11番のりば「名古屋駅」行（循環）「トヨタ産業技術記念館」下車、徒歩3分
- なごや観光ルートバス「メーグル」：名古屋駅8番のりば「トヨタ産業技術記念館」下車、徒歩0分
- 地下鉄：東山線「亀島駅」下車、2番出口より徒歩10分
- JR・近鉄・名鉄「名古屋駅」から徒歩25分、タクシー利用で5分

お車でのご来館は

- 名古屋高速都心環状線「錦橋出口」あるいは「丸の内出口」から10分
- 無料駐車場（乗用車210台、大型バス10台）

稼働遺産とその活用－新たな展開を求めて－

稼働遺産とは、稼働中の産業遺産のことを言います。東海地域では、四日市の可動橋である末広橋梁、知多や三河の織布工場などが対象として挙げられます。2015年に世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」では稼働中の産業遺産が焦点となり、旧官営八幡製鉄所の旧鍛冶工場や長崎造船所のクレーンなど、現役の施設や機械が登録されました。しかし現役であることの課題も言われています。稼働遺産の意義や課題、そして活用についても議論したいと思います。



プログラム	12:00	受付開始
	13:00	開会
	13:05～	基調講演「産業遺産の評価と保存－「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録に関して－ 講師 清水 憲一（九州国際大学特任教授）
		講演「現役 of 鉄道可動橋 末広橋梁」 講師 葛山 拓也（四日市市教育委員会）
		講演「未だ稼働し続けるシャトル織機」 講師 成田 年秀（トヨタ産業技術記念館副館長・学芸員）
	15:30～	質疑応答 意見交換
	16:45	閉会
	17:05～18:45	懇親会（事前申込者のみ） 会場：ブリックエイジ（館内）

参加費（講演報告資料集の代金を含む）

一般 1,000円

* 中部産業遺産研究会員 500円

* 学生で資料を必要としない場合 無料

懇親会 5,000円（予定）

※参加費はお申し込み後、出来るだけ事前に振込をお願いします。

※振込先

【郵便振替】

口座番号：00880-2-83831

口座名称：シンポジウム「日本の技術史をみる眼」
（個人での振込は申込者の名前をお願いします）

定員

シンポジウム：最大99名（会場の定員）

懇親会：30名

（定員になり次第締め切らせていただきます）

お問い合わせ

【中部産業遺産研究会ホームページ】

<http://csih.sakura.ne.jp/>

【シンポジウム開催案内ホームページ】

<http://csih.sakura.ne.jp/nitigi.html>

【シンポジウム実行委員会事務局 山田 貢】

E-mail yamada3a1415926535@ca2.so-net.ne.jp

FAX (052) 795-4297

お申し込み

ホームページ、または郵送でお申し込み下さい。

なお、参加券は発行しません。定員超過などによるお断りがなければ、当日受付までお越しください。

◎ホームページ

下記の「参加申し込みフォーム」からお申し込み下さい。

<http://csih.sakura.ne.jp/sympo.html>

◎郵送

下記申込書をハガキに貼り付けてお送りください。

〒470-0213 愛知県みよし市打越町九蔵釜 93

加藤 真司 宛

「日本の技術史をみる眼」第3・4回申込書

①(フリガナ)

氏名

② 区分 一般・中部産業遺産研究会員・学生

③ 連絡先

・電話

・E-mail

④ 所属（団体名・勤務先など）

（学生の場合は学校名、学年を記入してください）

⑤ 懇親会参加 する ・ しない

* 申込書に記載の個人情報は、当シンポジウムの運営及び緊急の連絡のみに使用します。

* 勤務先等で複数お申し込みの場合は別紙も可、その場合、全員の参加者名をご記入ください。